

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2015年11月1日
No.303



第17回あいち高齢者大会「八方亭みややっこの憲法晰」=10月10日、名古屋市公会堂

10.13「10 月度事務局団体会議」「日高連運営委員会」開く 日本高齢者運動連絡会

日本高齢者運動連絡会は10月13日(火)午後、2015年10月度事務局団体会議・日高連運営委員会を開き、10団体と事務局あわせて17人が出席しました。

◇

冒頭、議長の田中英男氏(茨城)から「第29回日本高齢者大会 in 和歌山ご苦労様でした。ありがとうございました」とあいさつがあり会議が始まりました。1.(1)情勢報告…財

務省財政制度審議会 10.9 資料より「医療・介護を通じた居住に係る負担の公平化」と「金融資産等の保有状況を考慮に入れた負担を求める仕組み」について(2)各県・団体の報告…10.10 高齢者大会に600人近くが集まり盛況だった。各団体からの参加も増えてきた。年金一揆の取り組みも行った(=愛知県)。10.3~4 に大阪で53 回目の「事業団高齢者介護ヘルパー運動全国交流集会」を

開いた。全国 14 都道府県から約 85 人集まった(=建交労)。高齢者大会の後に中央委員会を開き「戦争法廃止する新しい政府を！」を打ち出した。11 月 14-15 の全国大会に向けた運動が広がっている(=新婦人)。10.28 に生活保護アクション in 日比谷「25 条大集会」を開く。25 条バッジを作った。社会保障全体の底上げをはかっていく(=全生連)。自治体は、地域医療の問題、総合事業にまだ着手はしていない。来年 2 月に第 15 回大会を県西地区で開く予定。常総市は水害でいまだに大変な状況(=茨城県)。毎年行っている各自治体への要求行動、今年は 13 項目に絞った。23 日に都庁で交渉。11.16 に「高齢者のつどい」を開く(=東京)。県後期高齢者医療広域連合会に毎年行っている資料の送付を要請した。平成 27 年度短期被保険

者証交付状況一覧・平成 26 年度保険料軽減内訳・人間ドッグ等の費用助成(=静岡県)戦争法案一辺倒ではなく社会保障にも重点を(=全日本民医連)。(3)和歌山県実行委員会からの総括と(4)東京から第 30 回大会の準備状況の報告がありました。2.中央としての大会まとめについては今回の討議をもとに次回事務局団体会議に提起します。3.中央実行委員会総会について 4.日本高齢者運動連絡会関係 5.10・28 生活保護アクション日比谷について提起・報告がありました。

日本高齢者大会中央実行委員会
○12月15日(火)
午後1時30分から4時30分
○東京国際フォーラム ガラス棟 G402
JR 有楽町駅・JR 東京駅下車

記念講演「健康で長生きするために」 9・21「第 21 回石川県高齢者大会」に 84 人 石川県高齢期運動連絡会



第 21 回石川県高齢者大会が 9 月 21 日、午後、近江町交流プラザで開かれ、84 人が参加しました。昨年は、市長選の関係で残念ながら中止しましたが今年は、事務局会議を数回重ねてぜひ成功させようと準備を進めてきました。石川県は、高齢者運動が十分に進んでいませんが 1 昨年に数年ぶりに開催し、高齢期運動を継続させたいと石川県の高齢者大会を敬老の日に決めました。当日は、



参加者数が心配されましたが、会場いっぱいになりホッとしています。

大会は、最初に主催者あいさつとして高齢期運動の重要性について石川県健康友の会連合会事務局長の木村吉伸さんが語り、続いて参加者の中から日本高齢者大会の報告がされました。「パワーには、とても感動しました」「元気を一杯頂きました」など感動した場面を思い出しながら述べられました。



記念講演は、88歳の城北病院名誉院長の
 昉昭三医師で「健康で長生きするために」と
 というテーマでした。昉医師の講演は、医療従
 事者の立場から自分が生きてきた中での教
 訓を語るもので参加者に感動を与えるもの

でした。第2回（1971年）大会の「65歳
 以上医療費無料化」や「再軍備反対」のゼッ
 ケンを掲げる石川参加者の様子、内灘闘争で
 の闘い、健診の大切さ、医療制度改革の内容、
 「生きがい」や「死」についての考え方など
 幅広い内容で、最後に「沈黙は不道徳」の言
 葉で締めくくり、今後の闘い方を象徴するも
 のでした。

石川県高齢期運動連絡会の運動は、現在、
 全国大会と石川県大会が中心になっていま
 すがもっと多くの賛同団体の中で日常的な
 活動を行っていかねばと思っています。

（石川県高齢期運動連絡会事務局 寺中）

9・25「第24回高齢者のつどい・作品展」に380人 あすなら苑大國施設長の介護の「ほっ」とする話に共感 奈良県高齢者運動連絡会



講演する大國康夫さん



質問する参加者

9月25日から27日の3日間、奈良市生
 涯学習センターにて、第24回奈良の高齢者



のつどい・作品展が開催され、3日間で38
 0人が参加しました。奈良県内で活動する



高齢者の作品展会場

様々な団体より絵画、書、写真、編み物、木
 工細工、ちぎり絵など300点が展示され、
 精巧な作品の出来栄えを皆さん鑑賞してい

ました。27日の午後に行われた高齢者のつどいは、藤垣奈良県高運連会長の挨拶と報告のあと、特別養護老人ホームあすなら苑の大國康夫施設長が「介護保険と地域包括ケアのこれから」をテーマに記念講演をされました。

介護保険が改悪され、大変になっている中でも、利用者・家族・事業者がお互い助け合って生き生き頑張っているお話があり、ほっとする中身でした。

(奈良県高齢者運動連絡会 菊池)

豊かな高齢社会をめざす県民のつどい 10・10「第17回あいち高齢者大会」に600人 愛知社保協高齢期部会

お腹を抱えた90分

「八方亭みややっこの憲法晰」

豊かな高齢社会をめざす県民のつどいとして「愛知高齢者大会」が10月10日(土)名古屋市公会堂4階ホールで開催されました。初めての週末開催ということもあり、600人近い参加者で会場は満席となる盛況ぶりでした。

大会は、年金者組合：伊藤良孝委員長の挨拶で始まり、医療に携わる合唱団のうたごえがオープニングを飾りました。

三味線のお囃子によって登場したのが本日の講師「八方亭みややっこ」さん。憲法晰は、「本名は飯田美弥子。本職は東京の八王子合同法律事務所の務める弁護士です。月曜日から金曜日は本職の弁護士、土・日はこうして呼んでいただいて休む暇もありません、ひとえに私の人気があるので……。」の前置きで始まりました。

晰のお題は「歴史に学び未来を志向する日本国憲法」。

「日本国憲法になるまで、婦人に参政権はな



かったんですよ。現憲法以前までは、女性なんぞ、子どものころは親に従い、嫁にしては夫に従って、老いては子に従う。いわゆる『三界に家なし』である。日本国憲法が特にすばらしいのは、先の大戦を教訓して戦争という手段は捨てる、見切ったことです。」と憲法の大切さを語り、笑いの絶えない90分でした。

午後は、学習・囲碁・うたごえなど九つの分科会に分かれて参加し、有意義な一日を過ごしました。

(愛知社保協高齢期部会事務局長 大鶴孝幸)

11・16「第27回東京高齢者のつどい」 東京高齢期運動連絡会

日時 11月16日(月)
12:30 開場 13:00 開会
・会場 杉並公会堂大ホール
・記念講演：伊藤千尋さん
(国際ジャーナリスト)

『世界の現場から見える希望ある未来』
・地域・団体からの報告
・原爆詩の朗読 中村たつさん(劇団俳優座)
・東京高齢者・うたごえ合同による合唱。
・資料代 500円

11・17「第 11 回三重県高齢者大会」

三重県高齢者運動連絡会

第 11 回三重県高齢者大会ニュース 2015.9.24 より

平和でこそ健康で豊かな高齢期

11 月 17 日(火)猪の倉温泉しらさぎ苑



午前 10 時～午後 14 時 参加費 2000 円
昼食(弁当と汁物) 物資販売

14 時～温泉交流

参加目標 180 人(桑員 12 三沔 24 菰野 4
鈴鹿 42 亀山 10 津 24 久居 3 松阪 7 伊
賀 5 伊勢 15 むろ 14

新婦人 3 生健会 6 民医連・生協 8 民医連
退職者 2 三重労連 1 ※参加費は昼食代
の値上げの分の調整が必要です

主な内容 会長あいさつ 来賓あいさつ
基調報告 大会決議案の提案

記念講演 高齢者の人権と国連での高齢者
の人権条約の制定 講師 松原美省氏
参加団体と地域連絡会からの報告(案)

年金者 公的年金引き下げ裁判

名張 高齢者施設の建設運動

桑名 桑名市の介護保険の今

鈴鹿・桑名 女性部が元気のひけつ

「オール沖縄」から学び戦争法廃止の国民連合を築こう

11・23「第 27 回熊本県高齢者大会」

熊本県高齢者運動連絡会

日時 2015 年 11 月 23 日(月・休日)

場所 くまもと県民交流館パレオ 9F

<第 1 会議室>

記念講演 「沖縄のたたかいを全国へ」

吉田 務氏(やんばる統一連代表)

<安保条約破棄・くらし民主主義を守る統一行動連絡
会議>

資料代 500 円

10・1 は「国際高齢者デー」

(社)日本高齢期運動サポートセンター

(社)日本高齢期運動サポートセンターは、
国連に高齢者権利条約を制定させる活動に
取り組んでいます。その一環として国連本
部で 10 月 15 日に開催されたイベントに金
沢大学准教授・棟居徳子さんを派遣し各国参
加者と交流しました。以下その報告です。

(鐘ヶ江正志)

国際高齢者デーのイベントに参加して

棟居徳子(金沢大学)

毎年 10 月 1 日は「国際高齢者デー

(International Day of Older Persons)」
とされており、今年は国連総会で国際高齢者
デーが採択されてから 25 年目の節目を迎え
る。それを記念するイベントが 10 月 15 日
にニューヨークの国連本部で開催された。本
イベントは、ニューヨークの高齢化に関する
NGO 委員会と国連の Department of
Economic and Social Affairs Focal Point
on Ageing による共催で、日本を含む 27 カ
国の政府代表が参加するとともに、高齢者な
いし高齢化に関する NGO 等のメンバーが多

数参加した。

今年のテーマは、「都市環境における持続可能性と高齢者の包摂(Age Inclusiveness)」であった。今日、世界人口の都市への移動が急速に進んでおり、2030年までに世界中で10人に6人が都市に居住すると予測されている。こうした都市化現象とともに、特に途上国では高齢化も急激に進展しており、その結果、都市に暮らす60歳以上人口は、2050年までに90億人以上になるとされている。



会議場

27カ国の政府代表とNGOメンバーが参加

これは途上国における都市人口全体の4分の1を占める。

本イベントでは、こうした国際情勢を踏まえ、すべての人びとの公平、福祉及び繁栄の共有を促進する持続可能な都市環境の実現のためには、高齢者の包摂に関する議論が不可欠であるということが示された。また、主に次の事項について注意を喚起することが求められた。すなわち、「サービス提供の基本原則と高齢者の権利」、「高齢者の参加」、「政府と民間部門のパートナーシップ」、「革新的技術」、「世代間支援」、「マドリッド

国際行動計画」である。



会場前で 棟居徳子さん

「都市環境における高齢者の包摂のための主要な要素」と題したパネルディスカッションでは、各パネリスト(4名)が上記の事項にそれぞれ触れる形で報告を行った。日本人のパネリストも2名登壇し、日本の事例を通して、主に「革新的技術」や「世代間支援」に触れて報告した。

イベント全体としては、上記事項のうち「高齢者の権利」への言及が多く見られた。特に、アルゼンチン政府代表部の Mateo Estreme 氏やパナマ政府代表部の Laura E Flores 氏による挨拶では、高齢者の人権に関する問題に対応することの必要性や、高齢者の人権に関する議論の重要性が強調された。その背景には、現在これらの国が中心となり、高齢者権利条約の草案を推し進めていこうという動きがある。

本イベントには、ファンド・レイズのためのランションも含まれており、そこでは各NGO間の交流も図られた。

10・28生活保護アクション

25条大集会に4,000人

～ 生活保護関連では史上最大の集会 ～

10月28日、東京・日比谷野外音楽堂で「10.28生活保護アクション 25条大集会」が開かれました。この集会は、雨宮処凛、金子勝、益川敏英、森村誠一の各氏など50人

以上の各界著名人が呼びかけ人となりました。

集会では、呼びかけ人の一人である尾藤廣喜弁護士が、「憲法9条と25条は、私たちの



命を守る車の両輪。戦争法の廃止と貧困の根絶のために生活保護の充実が求められている」と主催者あいさつを行いました。

当事者からの訴えでは、「新人間裁判」をたたかう原告団など全国各地の原告団が登壇し、「貧困はお金だけの問題ではない。人間としての尊厳を破壊する」と訴えました。各分野からの訴えでは、障害者、年金者組合、

医療従事者、非正規労働者などが発言。年金引き下げ違法性、医療費の自己負担が患者の命を脅かしている実態、非正規労働者の人生に見通しを持ってない状況などを報告し、「憲法25条を守り、誰もが安心できる社会をつくろう」と訴えました。

集会のまとめを井上英夫金沢大学名誉教授が行い、「当事者がかつてない規模で立ち上がっている。この運動を大きく広げて、いのちとくらしを守ろう」と呼びかけました。集会では、日本共産党、民主党、維新の党、生活の党、社民党の国会議員が挨拶しました。

参加者は集会後、銀座までパレードを行い、「生活保護を削るな」「まともな仕事をよこせ」「福祉を守って平和をつくろう」などのシュプレヒコールをあげました。

人間のくらしと平和を守る集会 堀木訴訟提訴 45 周年記念に 200 人



堀木訴訟提訴 45 周年記念—人間のくらしと平和を守る市民集会が、11 月 1 日神戸市で開

催され、基調講演とシンポジウムが行われ 200 人が参加しました。

基調講演は、藤原清吾弁護士が「社会保障裁判の系譜と現代的意義」をテーマに、「今年は朝日訴訟東京地裁判決 55 年、堀木訴訟提訴 45 年になる。朝日訴訟はすべての生存権闘争の源流であり、堀木訴訟はその理念とその運動を受け継ぎ、障害をもつ者としての権利を確認し、差別に反対する闘いの原点となった。父なる朝日訴訟、母なる堀木訴訟と言いたい。」と述べました。また社会保障裁判について、「『政策形成訴訟』として闘われ憲法の基本的人権実現を目指して、また政府・権力者の進める道が基本的人権を侵害するものとして、その変更を



迫る戦いの一環であり、訴訟を通じて政策、制度の変更を迫るものである」と意義付けしまし

た。さらにこの集会の目的について、「社会保障裁判の歩みをふり返り、現在の闘いを交流し憲法 13 条、14 条、25 条の実現のため、12 条、97 条を実践して、これら共に進むべき進路を明らかにするため開かれた」としめくりました。

シンポジウムは、井上英夫金沢大学特任教授をコーディネーターに①朝日訴訟②堀木訴訟③老齢加算廃止・保護基準切り下げ違憲訴訟、④障害領域の裁判運動について研究者、弁護士、当事者から報告がありました。報告の中で、「第一の波」1960 年の安保闘争時の朝日訴訟、「第二の波」1970 年前後の革新自治体の誕生と発展、堀木訴訟、「第三の波」1990 年以降の社会保障抑制政策に対する国民的総反撃として多様な社会保障裁判の提起、今は、生活保護、年金など多数の人が参加する訴訟など「第四の波」に入っていると論議されたことが印象的でした。

安倍政権の社会保障解体政策のもと、戦後の社会保障運動をふり返り、これからの社会保障運動を前進させるために裁判闘争と地域の活動を共に発展させることを確認した画期的な集会でした。(記・鐘ヶ江正志)

※日本高齢者大会中央実行委員会 開催のお知らせ

○ 日時： 2015 年 12 月 15 日(火) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分

○ 会場： 東京国際フォーラム会議室 (ガラス棟 G402)

(東京都千代田区丸の内 3-5-1)

JR「有楽町」駅 徒歩 1 分

JR「東京」駅 徒歩 5 分

※各県連絡会には過日、開催案内と地図をお送りしました。

※第29回日本高齢者大会 in 和歌山 報告集 お申込みください。

12 月初旬を目途に準備中です。

ぜひお申込みください。

(定価 1,200 円)

※篠崎次男氏著 高齢期運動のブックレットNo.2発刊 (社)日本高齢期運動サポートセンター

「日本における高齢期保障の歩みと高齢期運動」(定価 500 円)

日本高齢者大会が始まってから 30 年。最初から高齢期運動の先頭に立ってきた筆者が、高齢期運動の歴史と成果をまとめ、新たな高齢期運動のあり方を提起します。

高齢期運動を学ぶテキストとして最適です。

*お申し込みは Fax 03-3384-6654 (社)日本高齢期運動サポートセンター